
2015年度中間決算説明会



ほくほくフィナンシャルグループ
Hokuhoku Financial Group

平成27年11月25日

【Ⅰ．2015年度中間決算概要】

・業績概要	1
・資金利益	3
・貸出金	4
・有価証券	6
・預金・NCD	7
・円貨預貸金利回り	8
・役務取引等利益	9
・経費	10
・与信費用	11
・不良債権	12
・自己資本	13
・中期経営計画進捗状況	14

【Ⅱ．2015年度下期 経営戦略】

・2015年度中間総括・下期戦略	15
・個人のお客様 <住宅ローン>	16
・個人のお客様 <カードローン>	17
・個人のお客様 <預かり資産>	18
・法人のお客様 <事業性貸出>	19
・有価証券運用	21
・預金 貸出金 有価証券	22
・経費 資本政策	23
・営業施策 活動	24
・広域ネットワークによるお客様のビジネス機会創出	25
・地域創生 地域貢献活動	26
・コーポレートガバナンス	27
・2016年3月期 業績予想	28
・2016年3月期 中期経営計画対比	29

I . 2015年度中間決算概要

業績概要 (連結・2行合算)

(億円)

【ほくほくFG連結】

	15/9期	増減額	14/9期
経常収益	991	27	964
経常利益	261	42	218
親会社株主に帰属する中間純利益	166	28	138

【ほくほくFG連結】

経常利益 261億円 (14/9期比+42億円)

親会社株主に帰属する

中間純利益 166億円 (14/9期比+28億円)

【2行合算】

	15/9期	増減額	14/9期
コア業務粗利益	729	8	720
資金利益	615	5	610
役務取引等利益	101	6	95
特定取引利益	0	△ 0	1
その他業務利益(※)	10	△ 3	13
経費(△) (臨時処理分を除く)	453	△ 23	477
コア業務純益	275	31	243
国債等債券損益	5	△ 22	28
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	281	9	272
一般貸倒引当金繰入(△)	3	2	0
業務純益	278	6	271
臨時損益	△ 9	38	△ 47
うち不良債権処理額(△)	13	△ 16	29
うち株式等損益	12	8	4
経常利益	268	45	223
特別損益	△ 6	△ 1	△ 4
法人税等(△)	83	13	70
中間純利益	178	29	148

【2行合算】

コア業務純益 275億円 (14/9期比+31億円)

…資金利益および役務取引等利益の増加、経費の減少

経常利益 268億円 (14/9期比+45億円)

…株式等損益の増加および与信費用の減少、
国債等債券損益の減少

中間純利益 178億円 (14/9期比+29億円)

【連単差の内訳】

(億円)

	15/9期	増減額	14/9期
差額	△ 12	△ 1	△ 10
子会社利益	5	△ 2	8
のれん償却	△ 10	-	△ 10
パーチェス調整	△ 0	△ 0	△ 0
その他	△ 6	1	△ 8

(参考) 与信費用

	16	△ 13	30
--	----	------	----

※その他業務利益: 国債等債券損益を除く

業績概要 (北陸銀行・北海道銀行)

	【北陸銀行】			【北海道銀行】 (億円)		
	15/9期	増減額	14/9期	15/9期	増減額	14/9期
コア業務粗利益	378	△ 3	381	350	11	339
資金利益	316	△ 2	319	299	7	291
役務取引等利益	54	3	51	47	3	43
特定取引利益	0	△ 0	1	-	-	-
その他業務利益(※)	6	△ 3	9	3	△ 0	3
経費(△) (臨時処理分を除く)	243	△ 16	259	210	△ 7	217
コア業務純益	134	12	122	140	19	121
国債等債券損益	2	△ 24	27	3	2	0
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	137	△ 11	149	143	21	122
一般貸倒引当金繰入(△)	1	2	△ 0	1	0	0
業務純益	136	△ 14	150	142	20	121
臨時損益	△ 6	18	△ 25	△ 2	20	△ 22
うち不良債権処理額(△)	7	△ 1	8	6	△ 14	21
うち株式等損益	7	7	△ 0	5	0	4
経常利益	129	4	125	139	41	98
特別損益	△ 5	△ 1	△ 4	△ 1	△ 0	△ 0
法人税等(△)	40	△ 1	42	42	14	27
中間純利益	82	4	78	96	25	70
(参考)与信費用	8	0	8	7	△ 14	21

※その他業務利益: 国債等債券損益を除く

【北陸銀行】

コア業務純益 134億円 (14/9期比+12億円)
 …経費(物件費)の減少、保険販売手数料の増加
 経常利益129億円 (14/9期比+4億円)
 …国債等債券損益の減少

【北海道銀行】

コア業務純益 140億円 (14/9期比+19億円)
 …経費(物件費)の減少、有価証券利息配当金の増加
 経常利益 139億円 (14/9期比+41億円)
 …与信費用の減少

資金利益

- 貸出金利息は、平均残高が増加したが利回りの低下が続き、前中間期比減少
- 資金利益は、貸出金利息の減少を有価証券利息配当金の増加、預金利息の減少により補い、増加に転じる

資金利益

(億円)

【2行合算】	15/9期	増減額	14/9期
資金利益	615	5	610
貸出金	493	△ 19	512
有価証券(※)	144	19	125
預金・NCD(△)	19	△ 2	21

※うち投信解約分配金:23億円(前中間期比+11億円)

〈利息増減要因〉

(億円)

【2行合算】	平残要因	利回要因
貸出金	12	△ 31
有価証券	△ 0	19
預金・NCD(△)	0	△ 2



平均残高

(億円)

【2行合算】	15/9期	増減額	14/9期
貸出金	75,207	1,801	73,405
有価証券	23,823	△ 113	23,937
預金・NCD	106,731	3,095	103,636

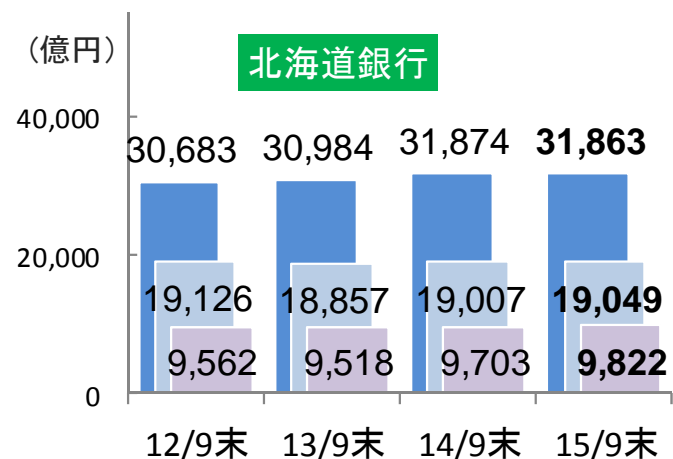
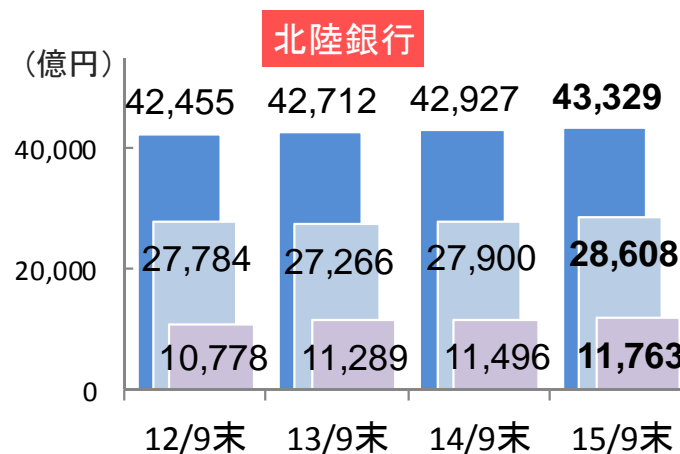
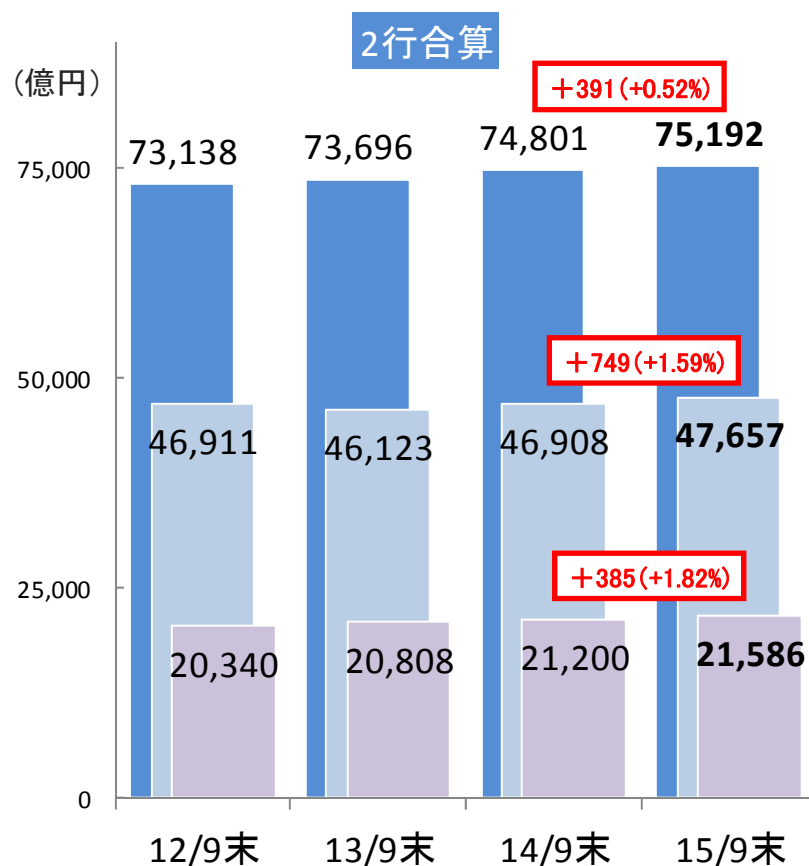
利回り

【2行合算】

	15/9期	増減額	14/9期
貸出金	1.30%	△0.09%	1.39%
有価証券	1.20%	0.16%	1.04%
預金・NCD	0.03%	△0.01%	0.04%

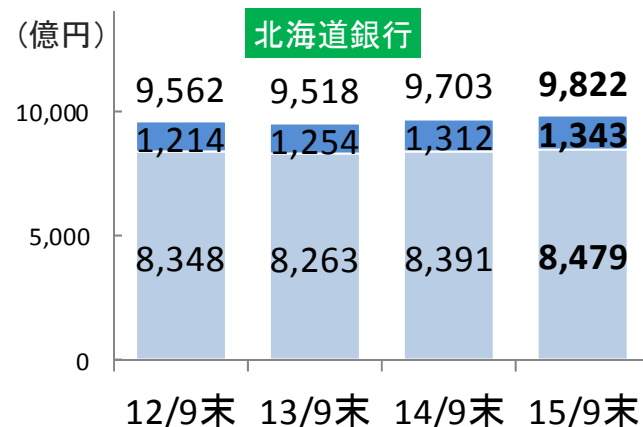
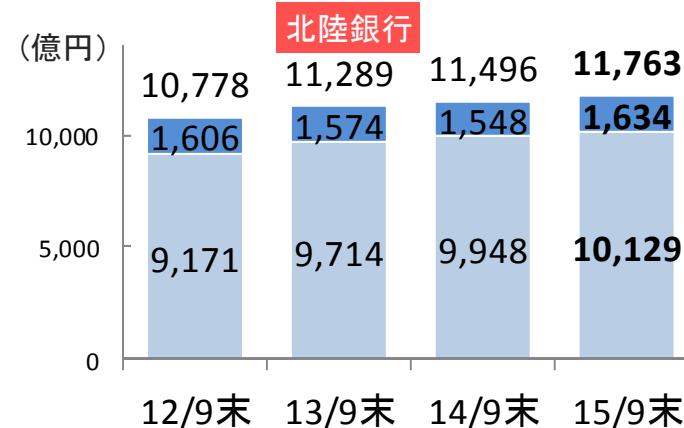
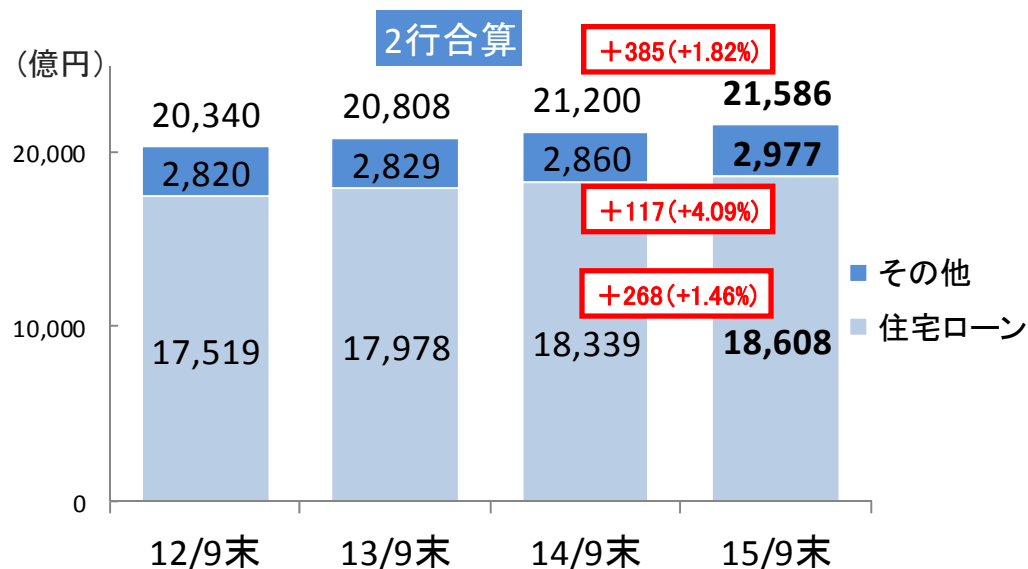
- 貸出金残高は、利回りの低い地方公共団体等向け貸出は減少したが、事業性貸出および個人ローンが堅調に推移し、増加傾向を維持

貸出金残高



- 個人ローン残高は、引続き住宅ローンの増加により増加傾向を維持
- その他個人ローン残高は、カードローンの積極的展開により、前中間期末比大きく増加

個人ローン残高



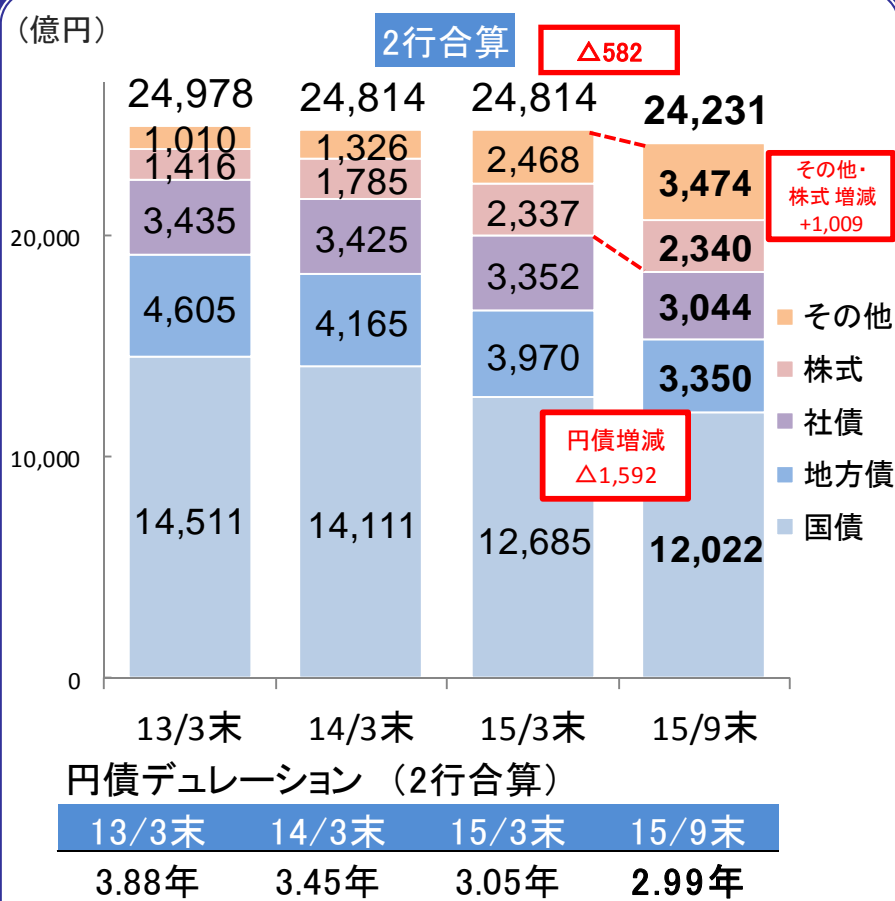
【住宅ローン実行額】(半年間)

	(億円)			
	12/9期	13/9期	14/9期	15/9期
北陸銀行	552	605	497	456
北海道銀行	387	340	371	382
2行合算	940	946	869	839

有価証券

- 有価証券残高は、外国債券や投資信託を主とするその他で積上げた一方で、金利情勢を勘案して円債の新規購入を抑制した結果、前期末比減少
- その他有価証券の評価損益は、株式市場の悪化により前期末比減少

有価証券残高



※ヘッジ考慮後

その他有価証券の評価損益

(億円)

【2行合算】	15/9末	増減額	15/3末
その他有価証券	1,220	$\Delta 204$	1,425
株式	850	$\Delta 101$	952
債券	360	$\Delta 15$	375
その他	9	$\Delta 87$	97

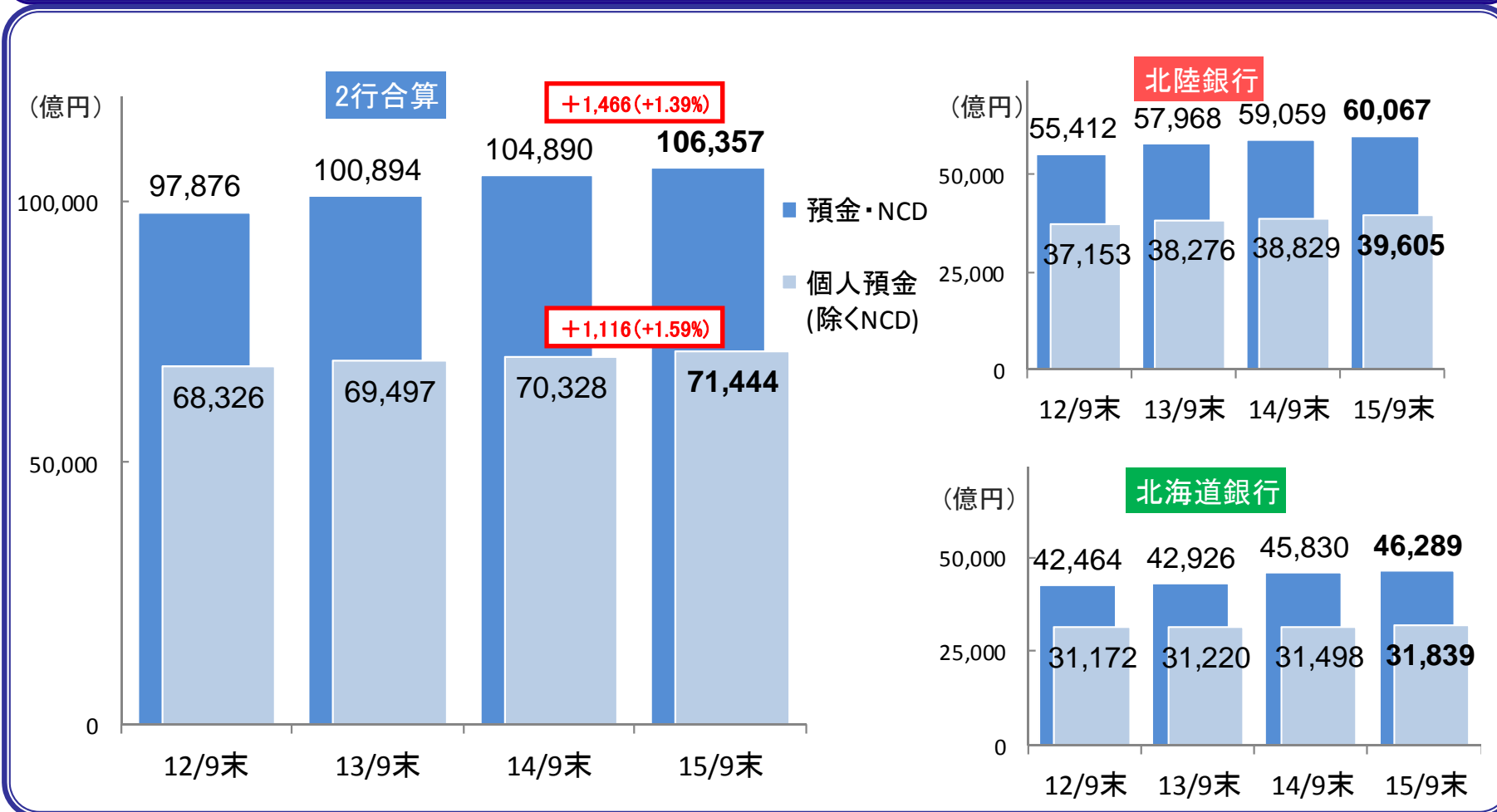
円債残高・利回り・金利リスク

(億円)

【2行合算】	15/9期	増減額	15/3期
円貨債券残高	18,416	$\Delta 1,592$	20,008
うち変動利付国債	3,784	$\Delta 115$	3,900
期中平均利回り	0.62%	$\Delta 0.03\%$	0.65%
VaR	165	$\Delta 21$	187

➤ 預金残高は、個人預金・法人預金が共に増加し、増加傾向を維持

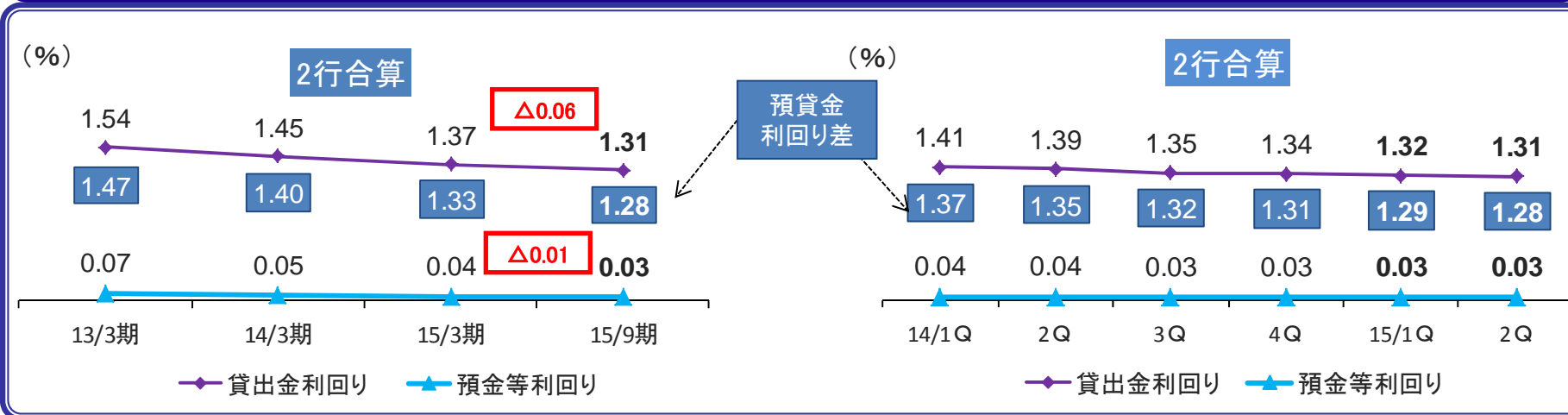
預金・NCD残高



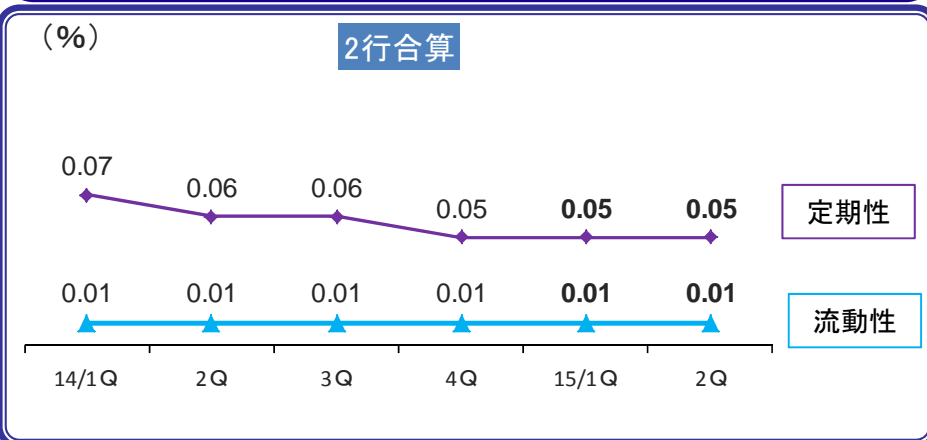
円貨預貸金利回り (内部管理ベース)

- 貸出金利回りは、個人ローン・地方公共団体向け等貸出で下げ止まるが、事業性貸出の低下傾向は続く
- 預金利回りは、下げ止まる

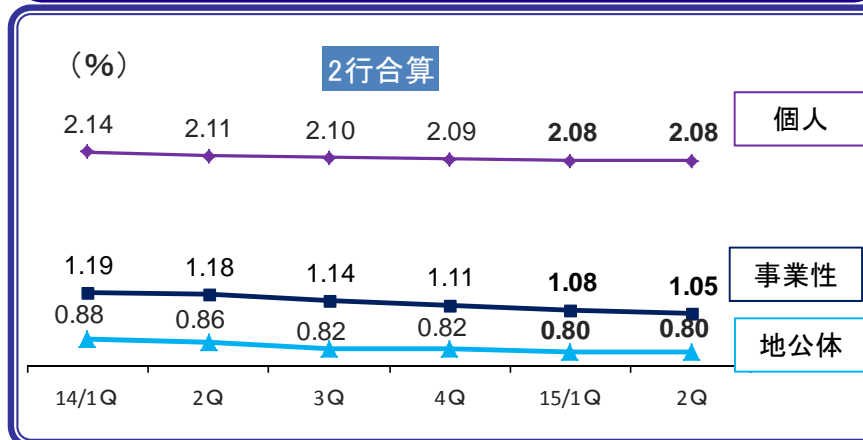
円貨預貸金利回り差



円貨預金利回り



円貨貸出金利回り



役務取引等利益

- 役務取引等利益は、保険・投資信託販売手数料の増加により前中間期比増加
- 預かり資産（個人）残高は、生命保険は増加したが、公共債の減少を主要因に前中間期末比減少

非金利収入

(億円)

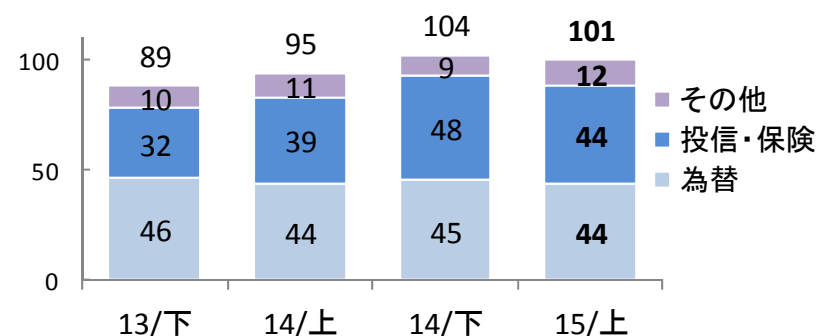
【2行合算】

	15/9期	増減額	14/9期
(1) 役務取引等利益	101	6	95
役務取引等収益	179	7	171
うち受入為替手数料	54	△ 0	54
うち投資信託手数料	24	1	23
うち保険手数料	20	4	15
役務取引等費用(△)	77	1	76
うち支払為替手数料(△)	9	0	9
うちローン保険料・保証料(△)	49	0	48
(2) 特定取引利益	0	△ 0	1
(3) その他業務利益(除く5勘定戻)	10	△ 3	13
うち外為売買損益	5	△ 0	6
うち金融派生商品収益	4	△ 2	7
(4) 非金利収入計 (1)+(2)+(3)	113	2	110
(5) コア業務粗利益	729	8	720
(6) 非金利収入比率 (4)/(5)	15.51%	0.21%	15.30%

役務取引等利益

(億円)

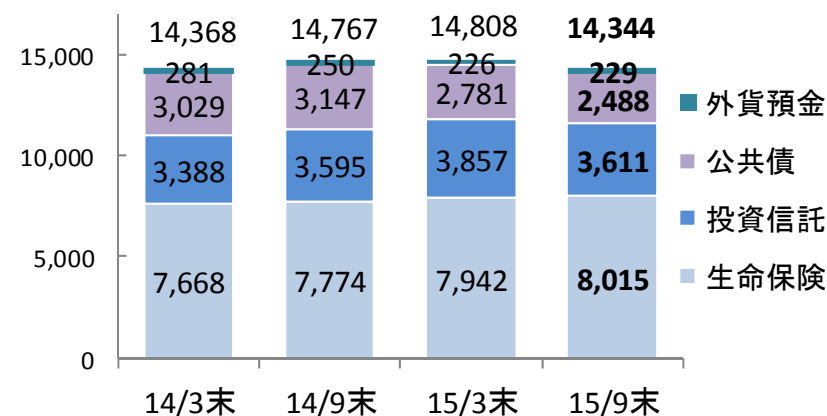
2行合算



預かり資産(個人)の残高

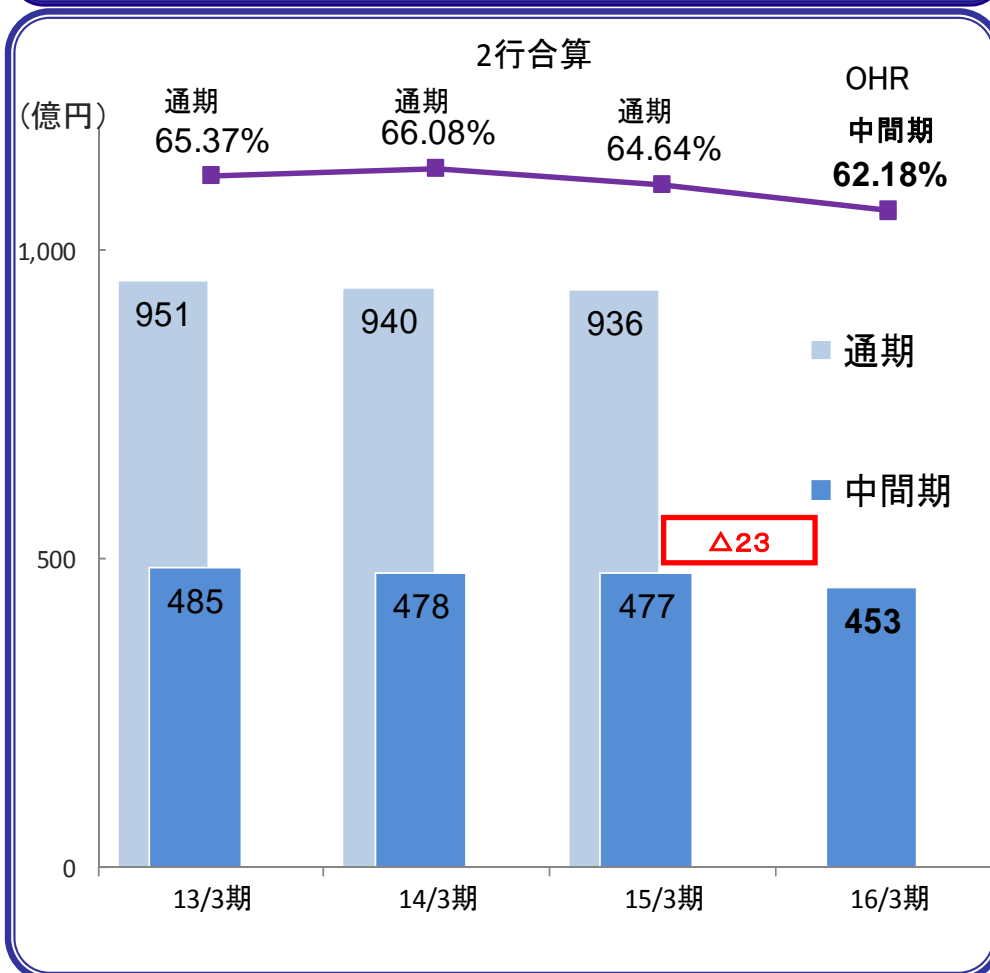
(億円)

2行合算



- 経費は、預金保険料率引下げに伴う物件費の減少等により前中間期比減少
- OHR（コア業務粗利益ベース）は、経費の減少および利益の増加により改善

経費・OHR



増減要因

(億円)

【2行合算】	15/9期	前年比	14/9期
人件費	219	△ 1	221
物件費	204	△ 24	229
税金	28	2	26
経費	453	△ 23	477

従業員数

(人)

【2行合算】	15/9末	前年比	14/9末
正社員	5,274	△ 9	5,283
スタッフ	3,067	△ 109	3,176

- ・正社員数は嘱託、パート、派遣社員を除く
- ・スタッフ数＝嘱託＋契約＋臨時＋派遣・直接雇用パート

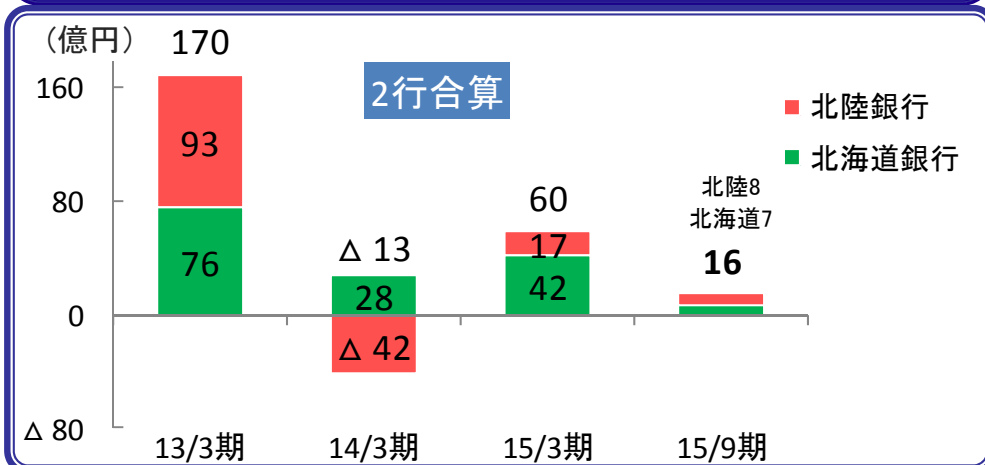
与信費用

- 景況感の改善および取引先の財務内容良化により、与信費用 16 億円、与信費用比率 0.04%と依然低水準で推移

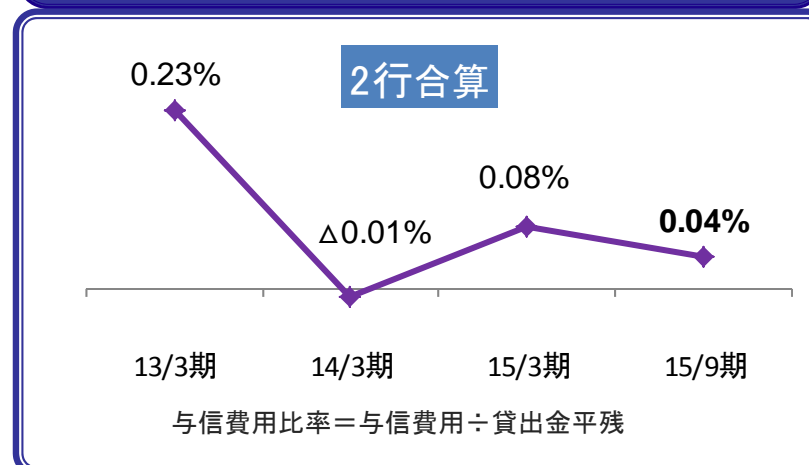
与信費用要因

【2行合算】	(億円)			〈不良債権処理額発生要因〉	(億円)		
	15/9期	前年比	14/9期		15/9期	前年比	14/9期
与信費用	16	△ 13	30	債務者区分悪化	39	△ 22	62
一般貸倒引当金繰入	3	2	0	債務者区分改善	△ 7	△ 2	△ 5
不良債権処理額	13	△ 16	29	地価下落	3	△ 5	9
個別貸倒引当金繰入	9	△ 16	26	その他回収等	△ 22	13	△ 36
貸倒引当金戻入益	-	-	-				

与信費用



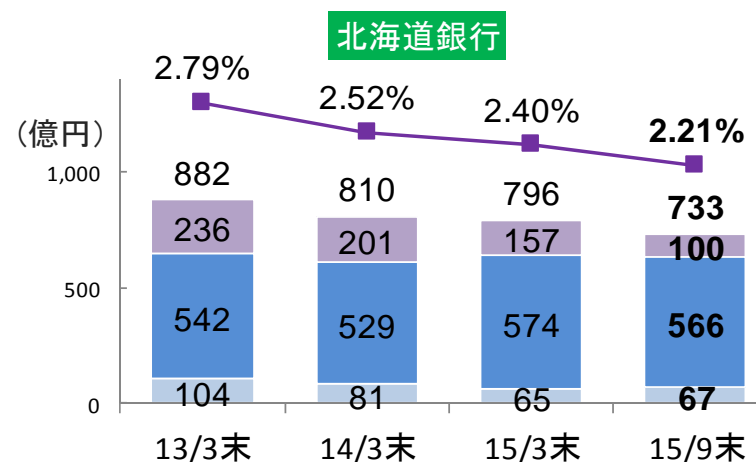
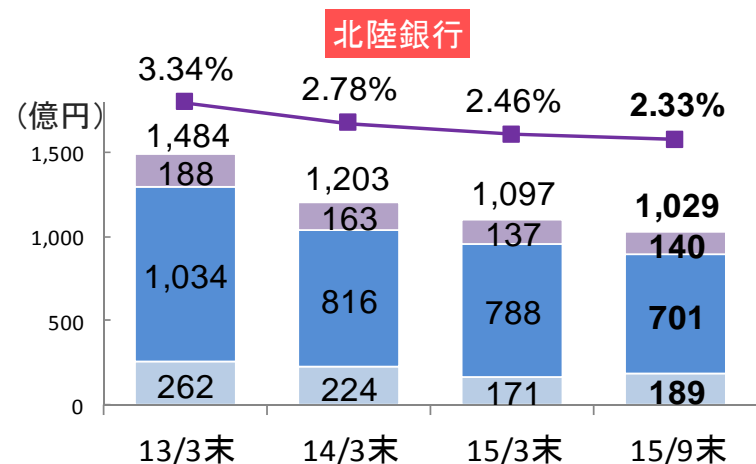
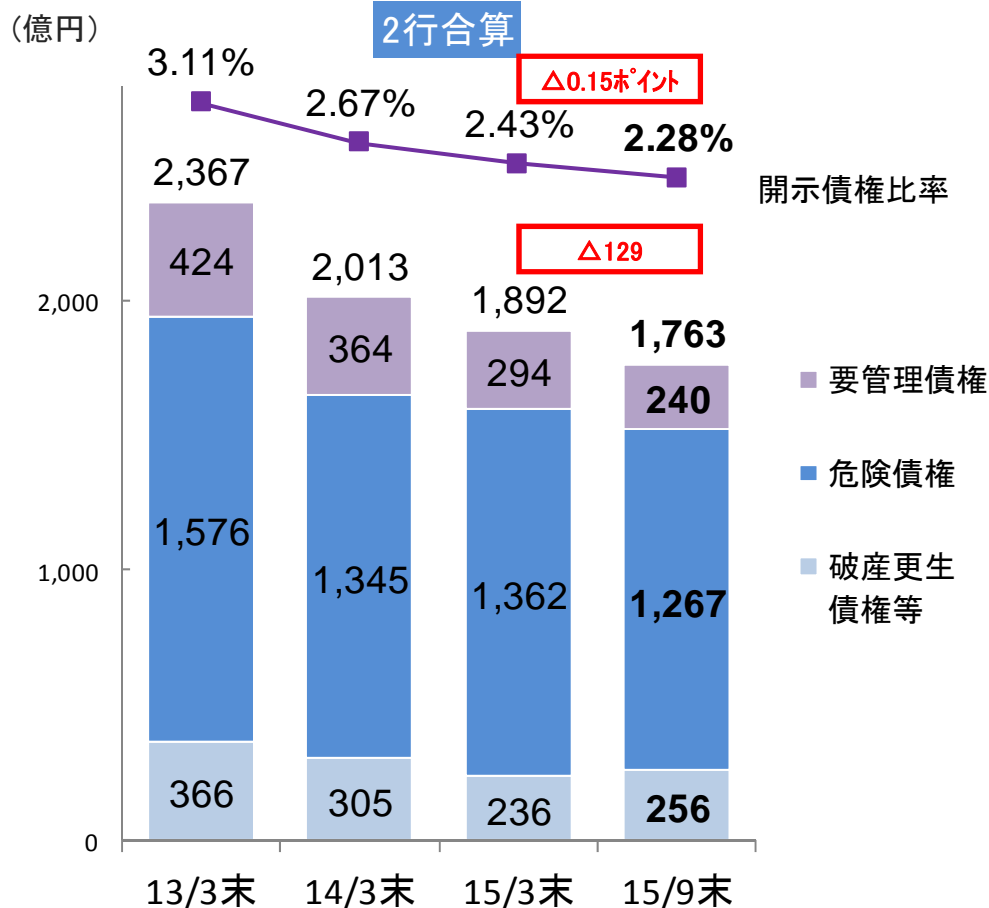
与信費用比率



不良債権

- 開示債権比率は、危険債権・要管理債権が減少したことから、前期末比0.15ポイント改善し、2.28%

金融再生法開示債権



- 自己資本比率は、利益の積上げの一方で劣後ローンの返済（220億円）を進め、前期末比0.24ポイント低下の10.89%

自己資本・リスクアセット

〈バーゼルⅢ国内基準〉

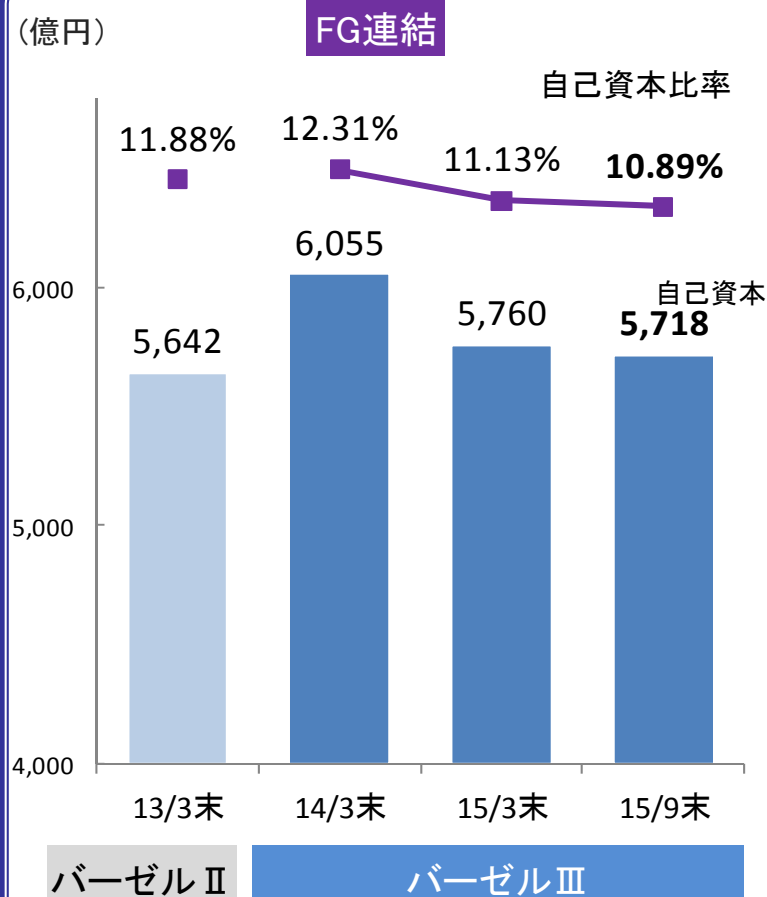
【FG連結】	経過措置適用			完全実施(試算)
	15/9末	増減	15/3末	15/9末
	(億円)			
自己資本	5,718	△ 42	5,760	4,165
基礎項目	5,923	△ 53	5,977	4,426
調整項目(△)	205	△ 11	216	261
リスクアセット	52,477	730	51,747	52,318
自己資本比率	10.89%	△ 0.24%	11.13%	7.96%

銀行勘定の金利リスク

【2行合算】	15/9末		15/3末
	15/9末	増減	15/3末
金利リスク量 (99パーセンタイル値)	138	35	102

(億円)

自己資本比率



➤ 15年9月実績は、16年3月計画に対して順調な進捗状況

	16年3月期 中期経営計画	14年3月期 実績	15年3月期 実績	15年9月期 実績	16/3計画対比
総預金平均残高	10兆1,100億円	10兆1,292億円	10兆4,336億円	10兆6,731億円	+5,631億円
貸出金平均残高	7兆4,800億円	7兆3,440億円	7兆4,520億円	7兆5,207億円	+407億円
コア業務純益	470億円	482億円	512億円	275億円	進捗率 58.6%
親会社株主に帰属する 当期(中間)純利益	185億円	273億円	282億円	166億円	進捗率 90.0%
連結自己資本比率	10%以上	12.31%	11.13%	10.89%	+0.89%
OHR (コア業務粗利ベース)	67%	66.08%	64.64%	62.18%	△4.82%
不良債権比率	2%台	2.67%	2.43%	2.28%	△0.72%

Ⅱ . 2015年度下期 経営戦略

2016年3月期 期初方針

- 住宅ローン他で貸出金残高の拡大を図り、カードローン推進やソリューション営業による資金需要取込みにより、貸出金利回りに歯止めを掛ける。
- 貸出金利息の減少を、預かり資産販売による手数料収入増加や機動的な有価証券運用によりカバーする。

中間総括

- 事業性貸出および個人ローンの貸出残高は前年比堅調に増加（前年同期末比増減率：事業性+3.8%、住宅ローン+1.4%、カードローン+17.5%）したが、貸出金利回りに歯止めを掛けるに至らず（前年同期比△0.09%、上期計画比△0.02%）。
- コア粗利ベースでは貸出金利息の減少（前年同期比△19億円）を有価証券運用の強化（有価証券利息配当金：同+19億円）および預かり資産販売による手数料増加（同+5億円）でカバー。
（その他の有価証券収益～株式等損益：同+8億円、国債等債券損益：同△22億円→昨年度の金利上昇リスクを勘案した売却に伴う利益計上の反動）

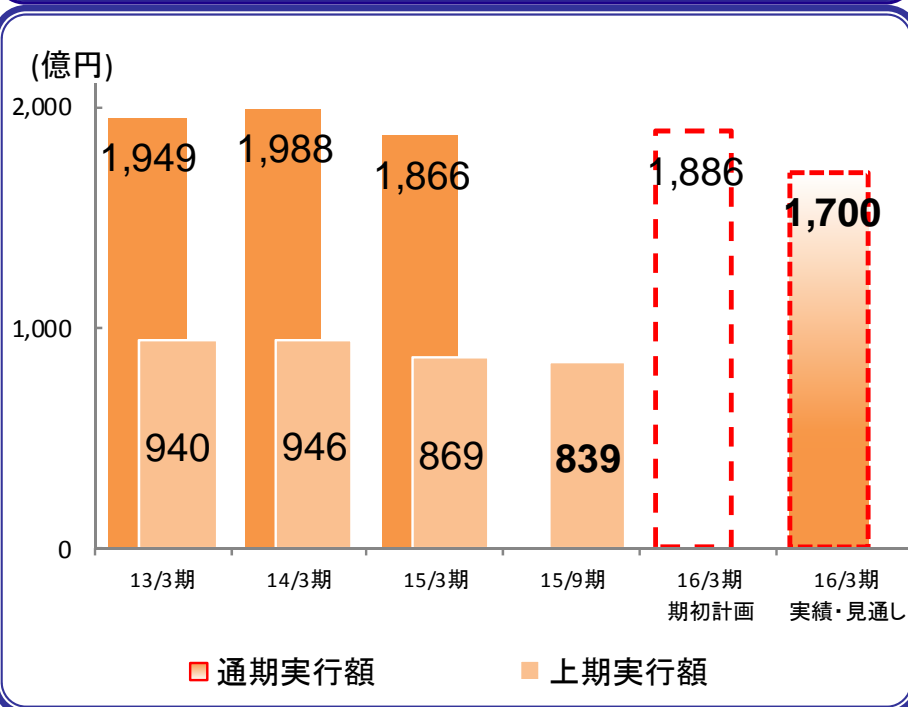
下期戦略

- 引き続き貸出残高の拡大を図りつつ、カードローン積上げやソリューション営業による金利競争に陥らない資金需要を取込み、貸出金利回りの低下に歯止めを掛ける。
- 貸出金利息の減少を、引き続き預かり資産販売の増強、有価証券運用によりカバーする。

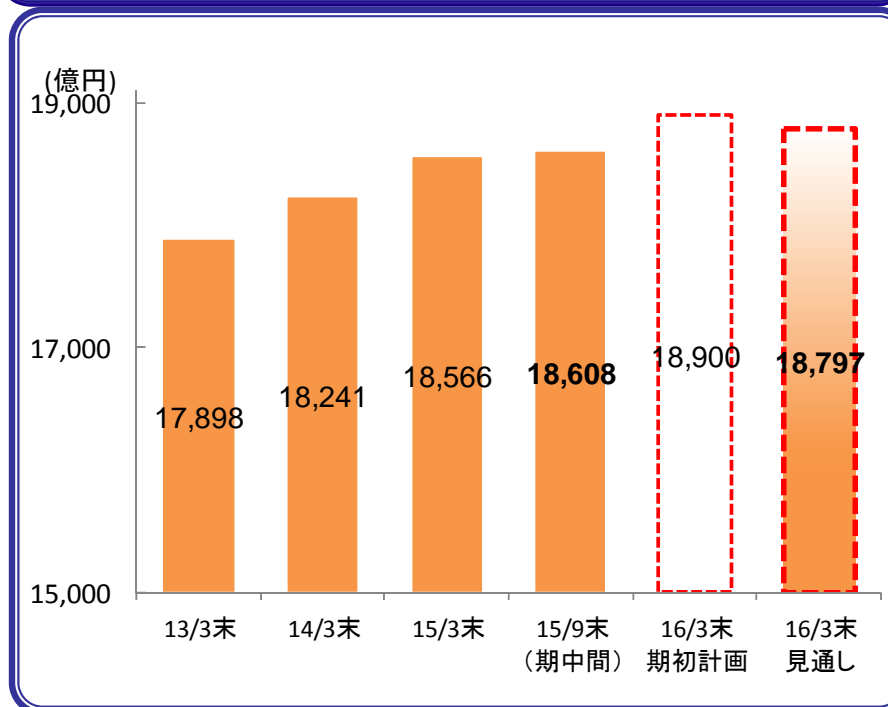
個人のお客様 <住宅ローン>

- 【期初】 ①商品リニューアルや②受付チャネルの多様化による、新築資金ニーズの他、中古住宅購入資金・リフォーム資金ニーズの掘り起し ⇒ 貸出残高の積上げ
- 【中間】 過度な金利競争に陥らない等金利設定に留意した推進により**実行額はやや減少**傾向。引続き、**適正金利を確保**しながらの残高積上げを図る。

住宅ローン 新規融資額



住宅ローン 残高



【地域創生・活性化】JTI提携ローン

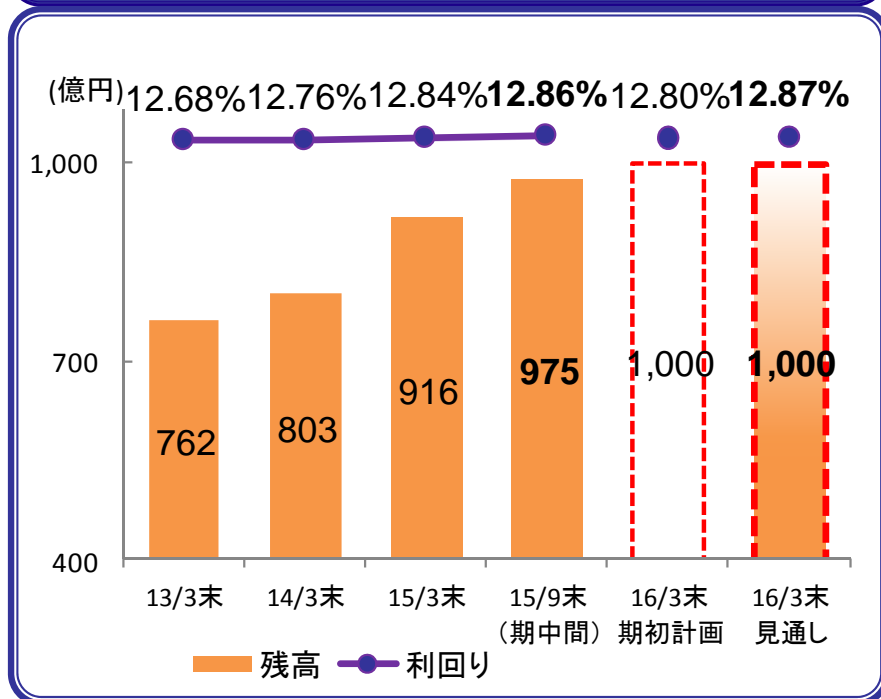
- 移住・定住促進住宅ローン
- 賃貸活用型リフォームローン
- 活用型リバースモーゲージローン

- 4月：商品リニューアル(ほくぎん住宅ローン)
- リフォームローン利用限度額拡大での推進
- HPからの住宅ローン事前審査の申込受付
- インターネットでの繰上返済・金利変更受付

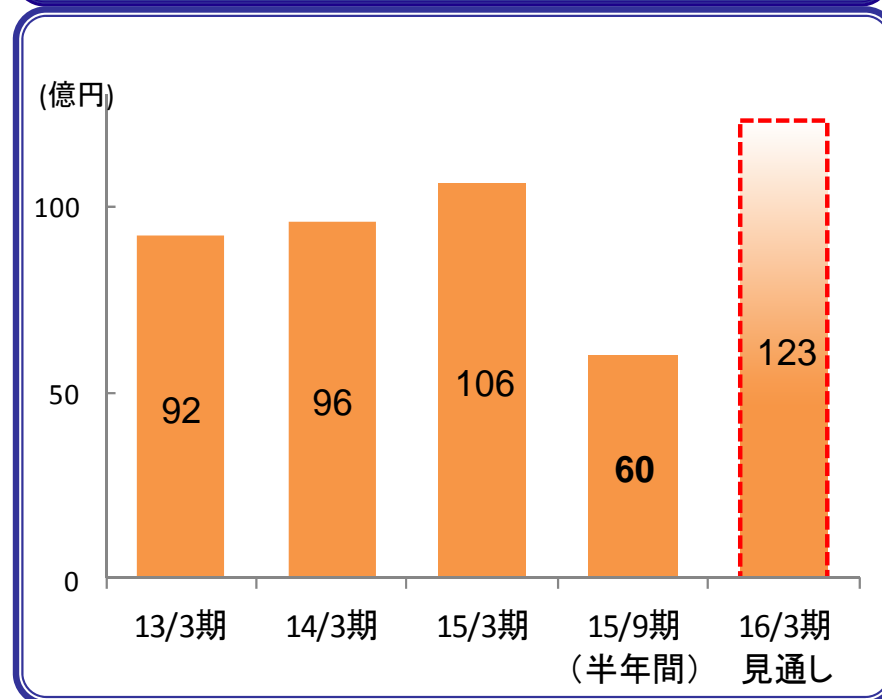
個人のお客様 <カードローン>

- 【期初】 ①取引状況に応じた利用限度額拡大や②テレビCMやインターネット広告等による潜在資金ニーズの掘り起し ⇒ 利回りの高い貸出残高の積上げ
- 【中間】 計画通りに順調に推移。テレビコマーシャルや新聞広告を継続し、残高の積上げを図り、貸出金全体の利回り改善を図る。

カードローン 残高



カードローン 利息収入



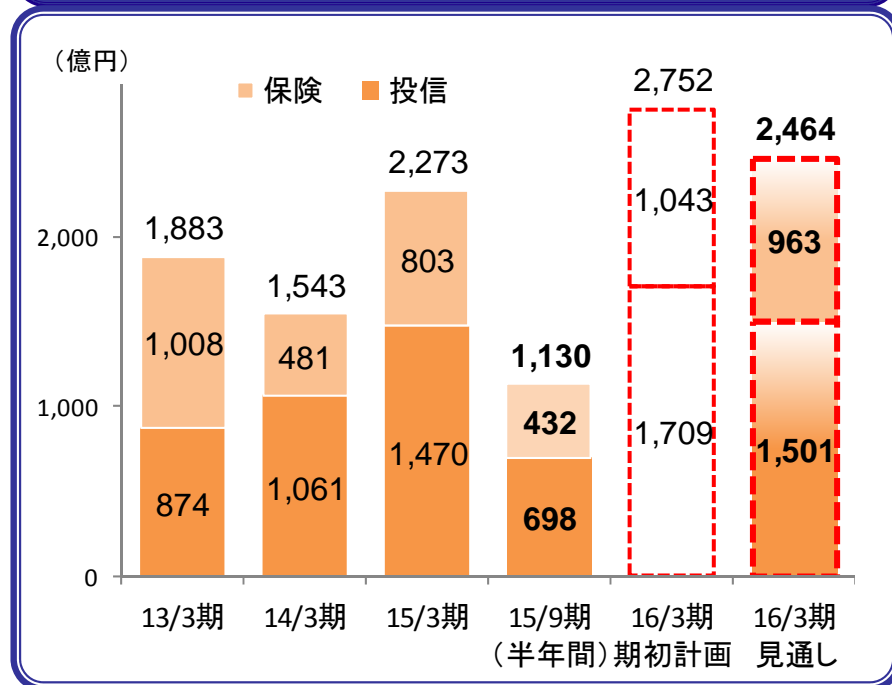
- テレビコマーシャル・新聞広告の継続
- インターネット(スマートフォン)、雑誌広告の強化
- ATM告知、IBバナー告知
- 既往のお客様への極度増額アプローチ



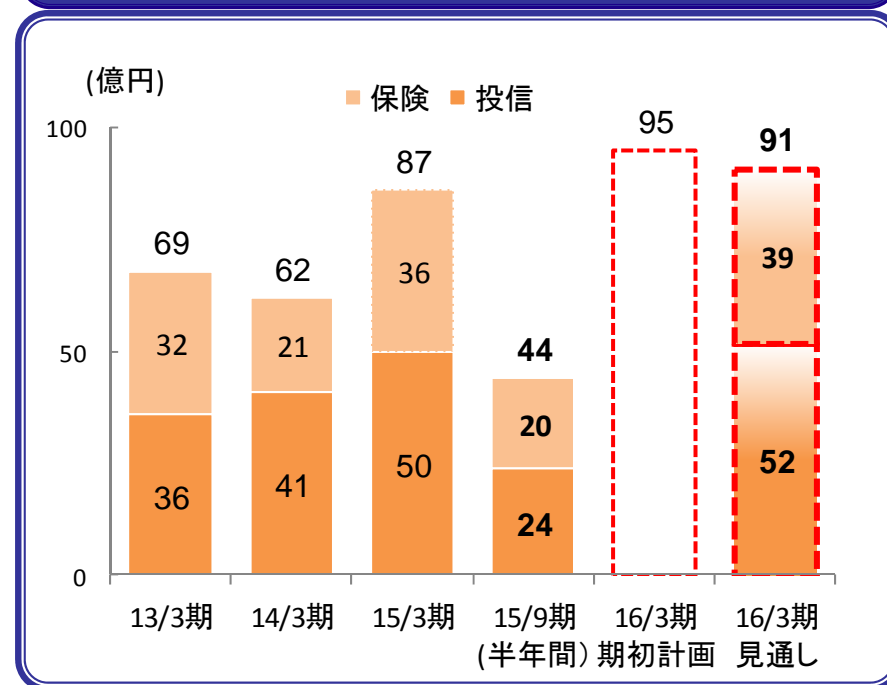
個人のお客様 <預かり資産>

- 【期初】資産運用ニーズに対して、投資信託や保険等の①商品ラインナップの充実、②チャネルの多様化、③商品提案力向上を図る。 ⇒ お客様満足度の向上 ⇒ 役務収益の拡大
- 【中間】前年対比では堅調であるが、8月以降のマーケット下落により計画対比ではやや低調。「コア・サテライト提案」により市場変動に過度に左右されない販売態勢を構築。

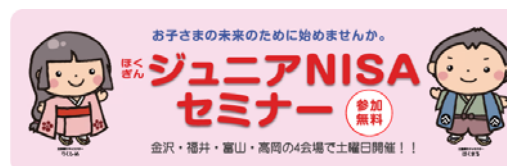
投資信託・保険 販売額



投資信託・保険 収益額

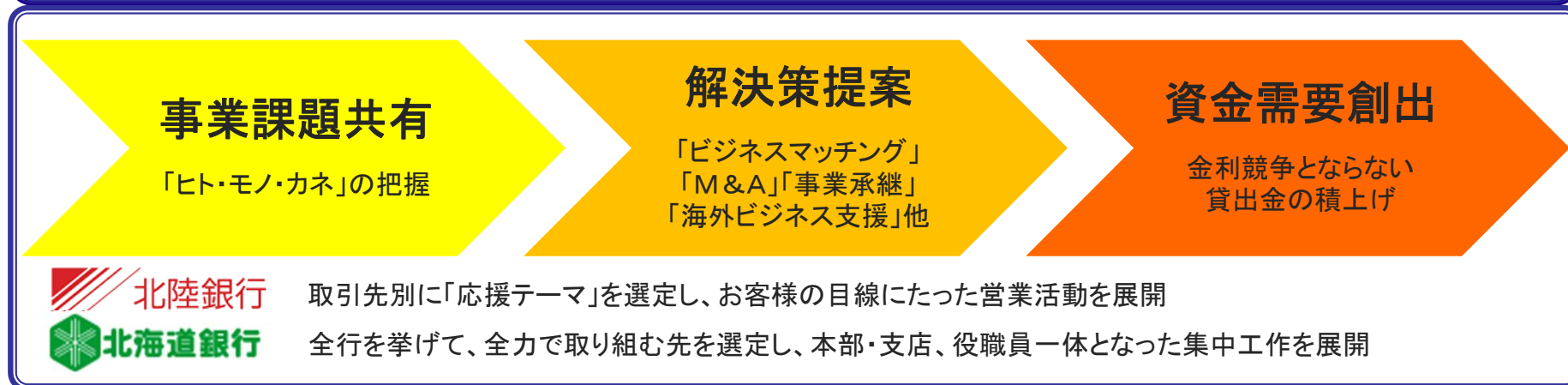


- 「コア・サテライト提案」による、投資信託残高の積上げ
- 「ニーズ喚起型顧客向けセミナー」の実施
- NISA利用先の裾野拡大(セミナー・キャンペーンの実施)



- 【期初】お客さまが直面している課題を共有 ⇒ 解決策（ソリューション）提案
⇒ 資金需要の創出 ⇒ **金利競争からの脱却**
- 【中間】個別に好事例は出て来ているが、金利低下に歯止めを掛けるに至っていないので、地道に期初方針を進める。成長分野：「**医療・福祉**」「**農業・食**」への取組強化。

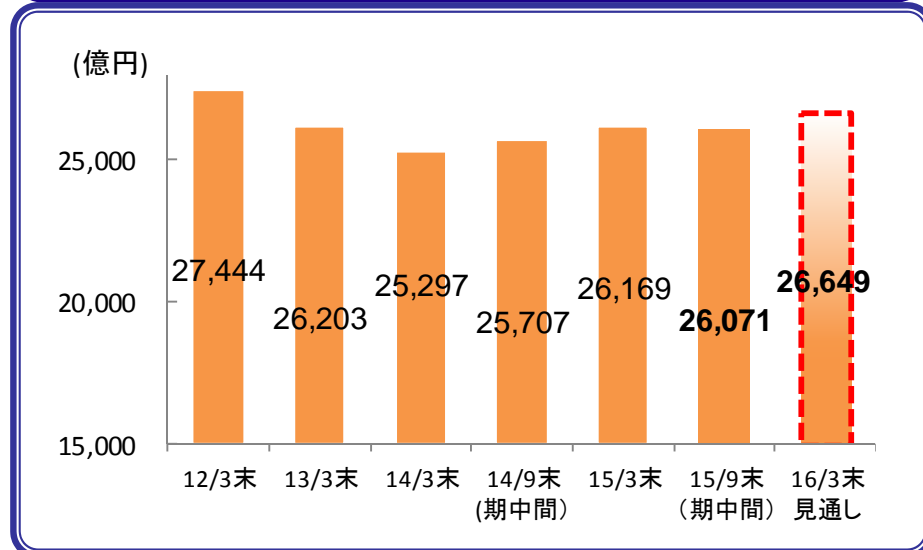
取引先のニーズ・課題の共有⇒解決案提示



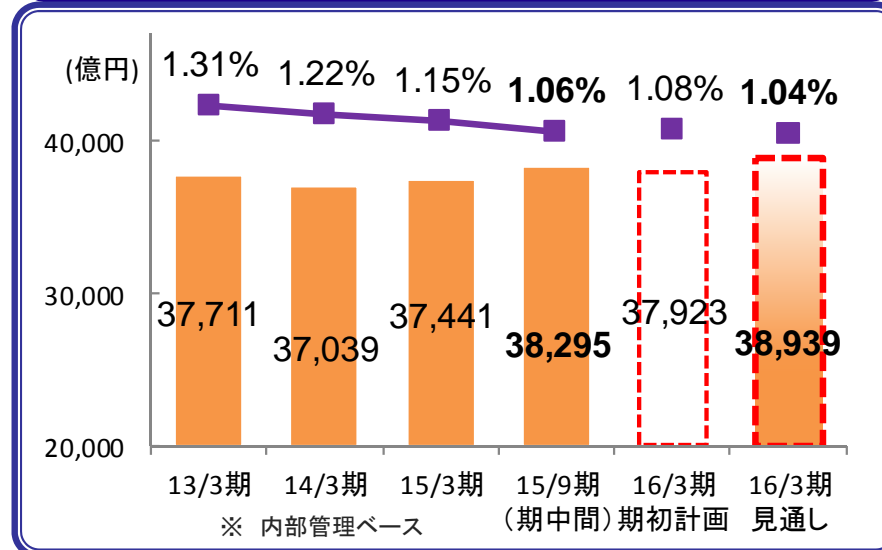
事例内容

- ・設備計画に対して①生産合理化、②補助金導入、③資金調達手段を本部機能も活用して提案し、資金需要を獲得。
- ・工場運営見直しにあたり、事業計画書や資金繰り表作成アドバイスを実施。社内危機意識の共有が図れたと評価。
- ・基金の解散にあたり、支店で長期間フォローを続け、確定拠出年金(DC)他の当局申請等を的確にサポート。
- ・海外進出予定先に対して、本部や海外事務所と連携のうえ大使館他を紹介し、進出をアシスト。外為取引を獲得。

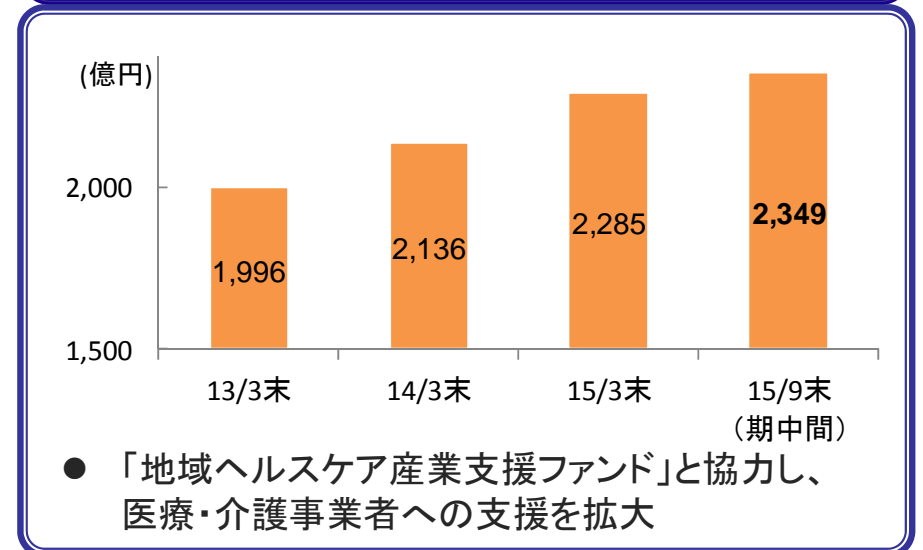
中小企業向け貸出残高



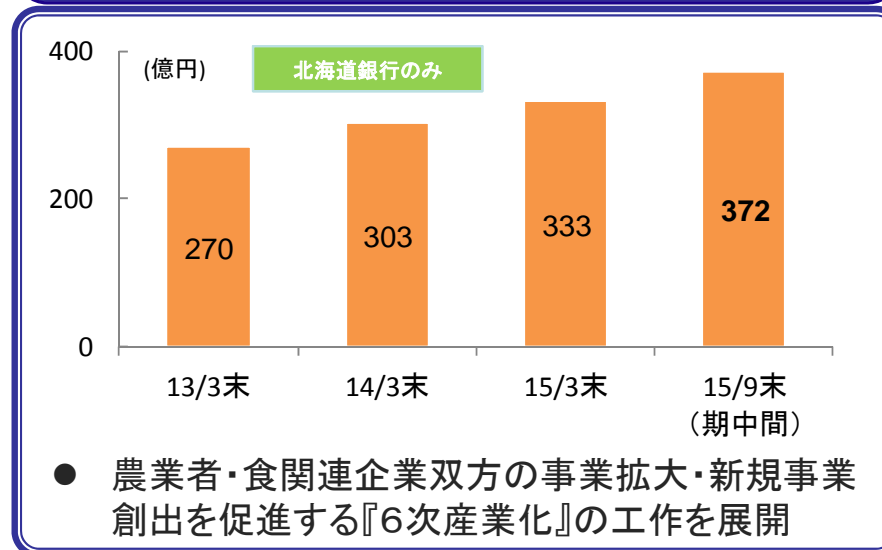
事業性貸出平均残高・利回り



医療・福祉

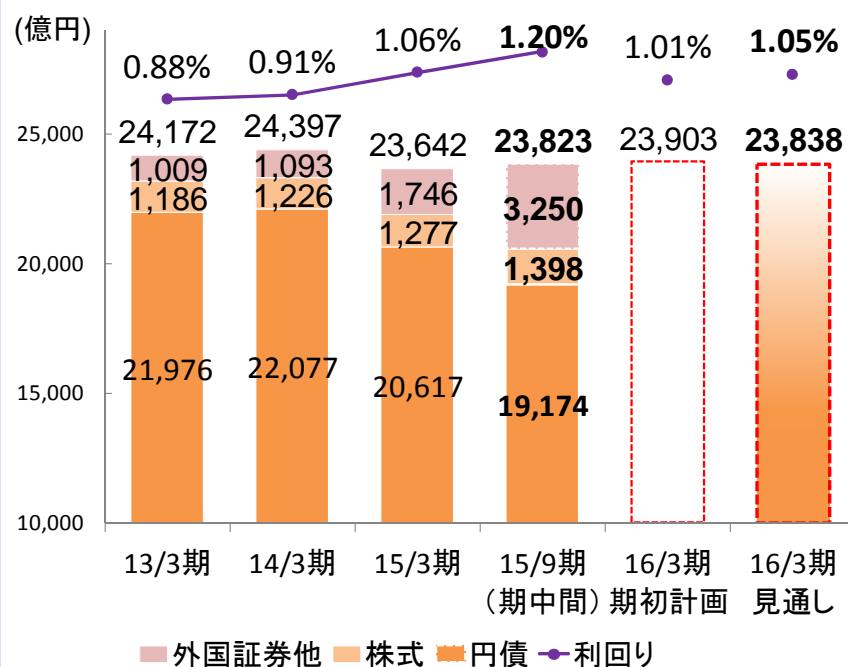


農業・食

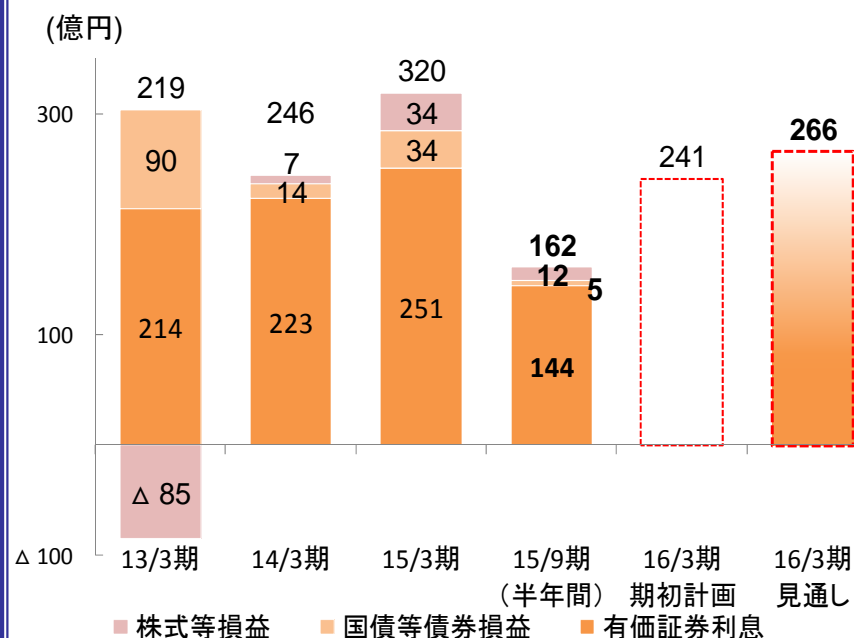


- 【期初】マーケット状況を見つつ、外国債券、投資信託での機動的な運用
⇒ 貸出金利息減少の補填
- 【中間】堅調な推移。引続き、外国債券、投資信託での機動的な運用を行い、貸出金利息減少の補填を図る。尚、株式運用については、相場状況を見ながら銘柄入替を行い、リスクコントロールを図りながら運用する。

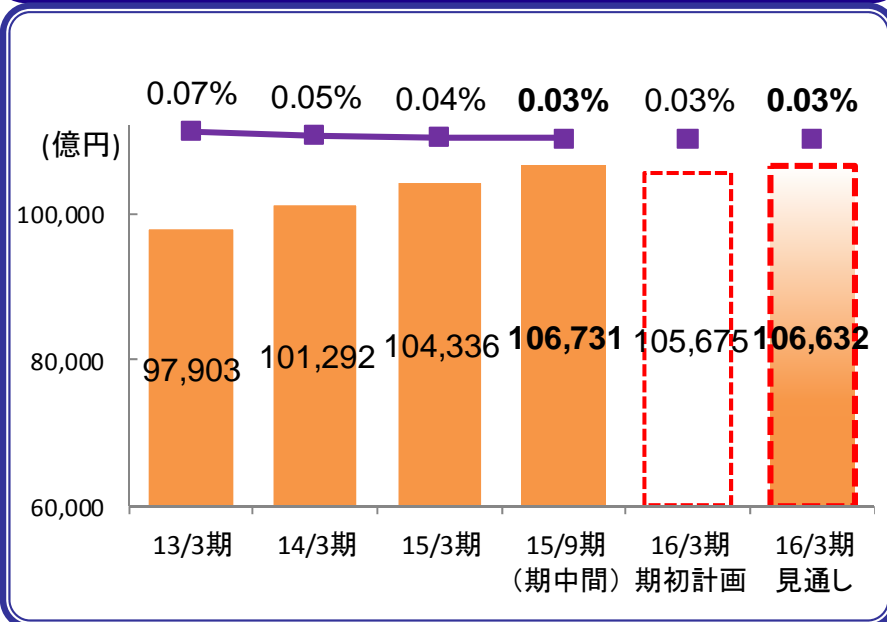
有価証券 平均残高・利回り



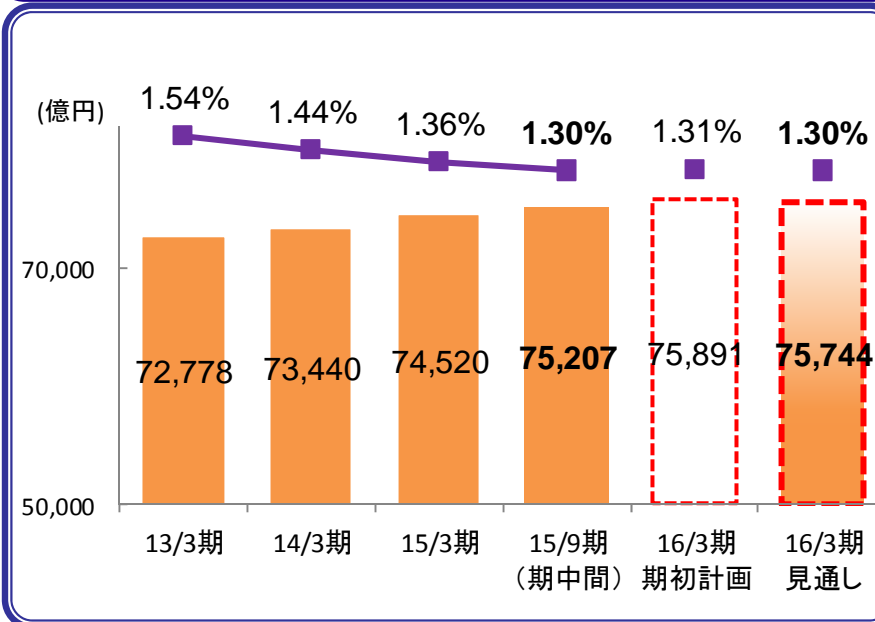
有価証券関連収益



預金 平均残高・利回り



貸出金 平均残高・利回り



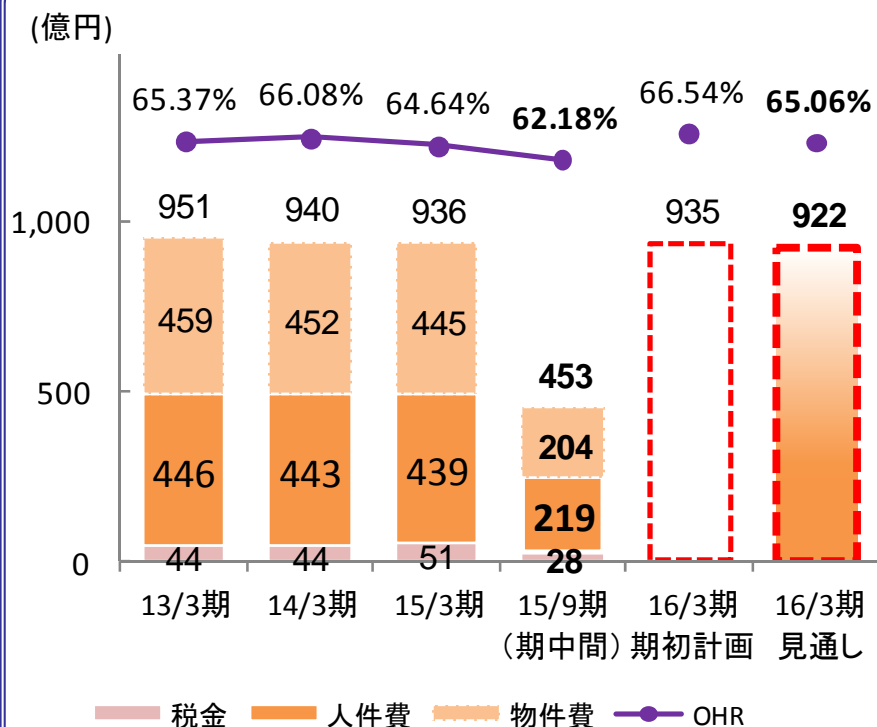
ボリューム(平均残高)

【2行合算】	15/3期 実績	16/3期 見通し	前年比
貸出金	74,520	75,744	1,224
有価証券	23,642	23,838	196
預金・NCD	104,336	106,632	2,295

資金利回り

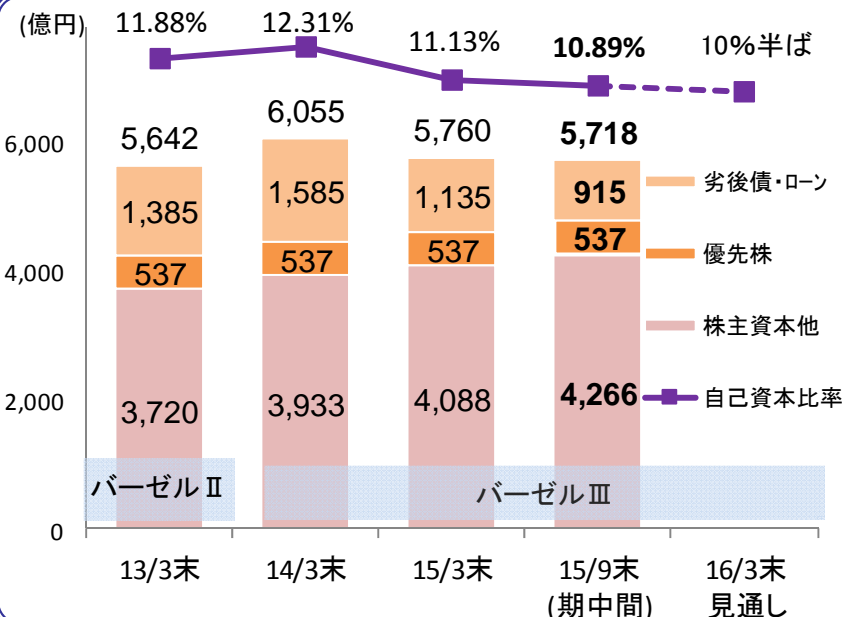
【2行合算】	15/3期 実績	16/3期 見通し	前年比
貸出金	1.36%	1.30%	△0.06%
有価証券	1.06%	1.05%	△0.01%
預金・NCD	0.04%	0.03%	△0.01%

経費・OHR



- 共同システム利用:
MEJARシステムに「七十七銀行」参加(16年1月)
- 「営業店運営体制」見直しによる効率化
- 事務効率化・本部集中による人件費削減
- シナジー効果の加速
事務統一化、バック業務の共同化

連結自己資本比率



ROE

10/3	11/3	12/3	14/3	15/3	15/9	16/3 (予想)
4.6%	3.2%	4.0%	5.8%	5.5%	6.1%	5%前半

普通株配当額推移(一株当たり)

08/3	09/3	10/4	11/3~13/3	14/3	15/3	16/3 (予想)
2.50	3.00	3.50	3.75	4.00	4.25	4.25

北陸銀行



10月27日、コンサルティングをメイン業務とする、「ほくぎんプラザ」が富山市内にオープン。相続・贈与や資産運用相談、各種セミナー案内と幅広いニーズに対応。

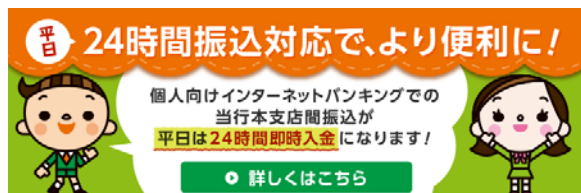


10月、業界最大手のアニコム損害保険と代理店契約を締結し、「ペット保険」の取扱いを開始。ペットの病気に対する不安を低減。

銀行手続の窓口

日本ATM(株)と提携し、東京駅前に「住所・氏名・印鑑の変更手続き」「通帳・キャッシュカードの再発行受付」を行う「銀行手続の窓口」を設置。

北海道銀行



7月より、個人向けインターネットバンキング「道銀ダイレクトサービス」を利用した北海道銀行本支店間の振込みについて、「平日24時間即時入金」の取扱いを開始。

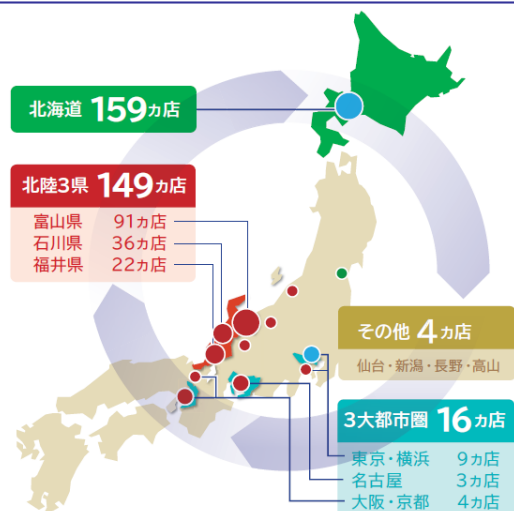


4月より、「残高照会」「入出金明細照会」ができるスマートフォン向けアプリ「どうぎん取引照会アプリ」の提供を開始。簡単に残高照会が可能に。

広域ネットワークによるお客様のビジネス機会創出

- 「日本」「中国」「アジア」「ロシア」「欧米」に広がるネットワークを活用したビジネス機会の創出 ⇒ お客様とのリレーション強化
- 様々なお客様ニーズに対応できる人財の育成

「国内ネットワーク」によるビジネス機会創出



- 「北海道の『食』特別商談会in函館」開催(8月)
- (株)日本M&Aセンターより
3年連続「情報開発大賞」受賞(北陸銀行)
- 「2行連携(ほくほく連携)」によるお客様の相互紹介・ビジネスマッチング
- グループ人財の活用

弁護士	公認会計士	農業経営アドバイザー	医業経営コンサルタント	医療経営士
4名	8名	77名	1名	26名

「海外ネットワーク」によるビジネス機会創出



- 海外駐在員事務所長 お客様向け報告会
 4月 北陸銀行バンコク事務所長・
 北海道銀行ユジノサハリンスク事務所長(帯広・札幌)
 10月 北陸銀行上海事務所長・
 北海道銀行瀋陽事務所長(札幌)
- 「ほくほく FOOD EXPO 2015」(8月)
 カシコン銀行との共催で東南アジア、中国、ロシアのバイヤーを招き札幌にて商談会を実施
- 「寧波商談会」開催(7月)
 中国浙江省寧波市で、市商務委員会との共催による中国進出企業向け商談会を実施

「地域創生」に向けた取組み

地方創生・6次産業化支援のファンドを設立

「移住・住みかえ支援機構(JTI)」との提携

地方自治体との包括連携協定を締結

北陸銀行 **地域創生応援プロジェクトチーム**

ふるさと就職応援プラットフォームの構築

リンカーズ(株)と提携してのビジネスマッチング

北海道銀行 **道銀地方創生本部**

道銀創業支援塾開講

自治体共同ビジネスセミナー

地域貢献活動

小学生銀行体験

ギャラリー・ミレー(美術館)

どうぎんカーリング
クラシック2015

北海道新幹線
カウントダウンボード

よさこいソーラン祭り



コーポレートガバナンス・コード

- 全てのコードに「**Comply**」
- 「必須開示項目（11項目）」：東証コーポレートガバナンス報告書および当社ホームページで**開示済み**（10月1日）
- コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方
 - (1) 株主の皆さまの権利を尊重し、平等性を確保する。
 - (2) 株主の皆さまのみならず、お客さま、地域社会、従業員などのステークホルダーの利益を考慮する。
 - (3) 適切に情報を開示し、透明性を確保する。
 - (4) 監査役会の監査機能を有効活用するとともに、独立社外取締役の活用により取締役会の監督機能の実効性を高める。
 - (5) 中長期的な企業価値向上に向け、株主の皆さまとの建設的な対話に努める。

コーポレートガバナンスの強化

- 社外取締役 1名→**2名へ増員**（6月）
取締役・監査役 12名のうち独立社外役員 4名：**3分の1が独立社外役員**

- 「コーポレートガバナンス・ガイドライン」制定（10月）

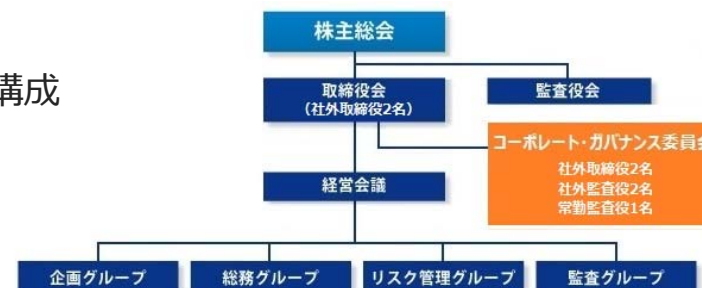
当社のコーポレートガバナンスの基本的な考え方、取締役会・監査役会の役割等を明記

- 「コーポレート・ガバナンス委員会」新設（9月）

構成：**社外取締役（2名）**、**社外監査役（2名）**、常勤監査役で構成

機能：・社外役員間の情報交換 ・代取との意見交換

- ・取締役の人事・報酬等の特に重要な事項に関する助言
- ・当社および業界に関する必要な知識の習得



16年3月期 通期業績予想(FG連結)

(億円)

	16/3期 業績予想	前年比
経常収益	1,900	△ 39
経常利益	440	△ 41
親会社株主に帰属する 当期純利益	295	12

16年3月期 配当予想

	中間配当	期末配当	年間予想
普通株式	—	4円25銭	4円25銭
第5種優先株式	7円50銭	7円50銭	15円00銭

16年3月期 通期業績予想(北陸銀行・北海道銀行)

	【2行合算】		【北陸銀行単体】		【北海道銀行単体】 (億円)	
	通期予想	前年比	通期予想	前年比	通期予想	前年比
経常収益	1,750	△ 44	910	△ 30	840	△ 14
コア業務粗利益	1,417	△ 31	760	△ 5	657	△ 26
経費(△)	922	△ 14	495	△ 9	427	△ 4
コア業務純益	495	△ 17	265	4	230	△ 21
与信費用(△)	40	△ 20	10	△ 7	30	△ 12
経常利益	445	△ 26	255	9	190	△ 36
当期純利益	305	22	170	23	135	△ 0

主要計数対比

	16年3月期 中期経営計画	16年3月期 計画・見通し	対比
総預金平均残高	10兆1,100億円	10兆6,632億円	+5,532億円
貸出金平均残高	7兆4,800億円	7兆5,744億円	+944億円
コア業務純益	470億円	495億円	+25億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	185億円	295億円	+110億円
連結自己資本比率	10%以上	10%半ば	—
OHR (コア業務粗利ベース)	67%	65.06%	△1.94%
不良債権比率	2%台	2%前半	—

本件に係る照会先

株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ
企画グループ(担当:宮崎)

TEL:076-423-7331

FAX:076-423-9545

E-MAIL:honsha2@hokuhoku-fg.co.jp

<http://www.hokuhoku-fg.co.jp/>

事前に株式会社ほくほくフィナンシャルグループの許可を書面で得ることなく本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止いたします。本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部または一部は、予告なく修正・変更されることがあります。本資料には、将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。